

事例3 法政大学（私立）

1. 大学概要

設立主体	国公立 ・ 私立
所在地（本部）	東京都千代田区富士見2丁目17番1号
大学設置年、創立年	設置：1920年 創立：1880年
学部・キャンパス	文系 ・ 理系 （学部数：15学部、3キャンパス） ＜市ヶ谷キャンパス＞ 法学部、文学部、経営学部、国際文化学部、人間環境学部、キャリアデザイン学部、デザイン工学部、GIS（グローバル教養学部） ＜多摩キャンパス＞ 経済学部、社会学部、現代福祉学部、スポーツ健康学部 ＜小金井キャンパス＞ デザイン工学部、情報科学部、理工学部、生命科学部
学生数（学部）	27,115名（2013年5月1日現在）

（2014年9月16日現在）

2. キャリア教育への取組状況

（1）キャリア教育についての取組方針、導入の背景等

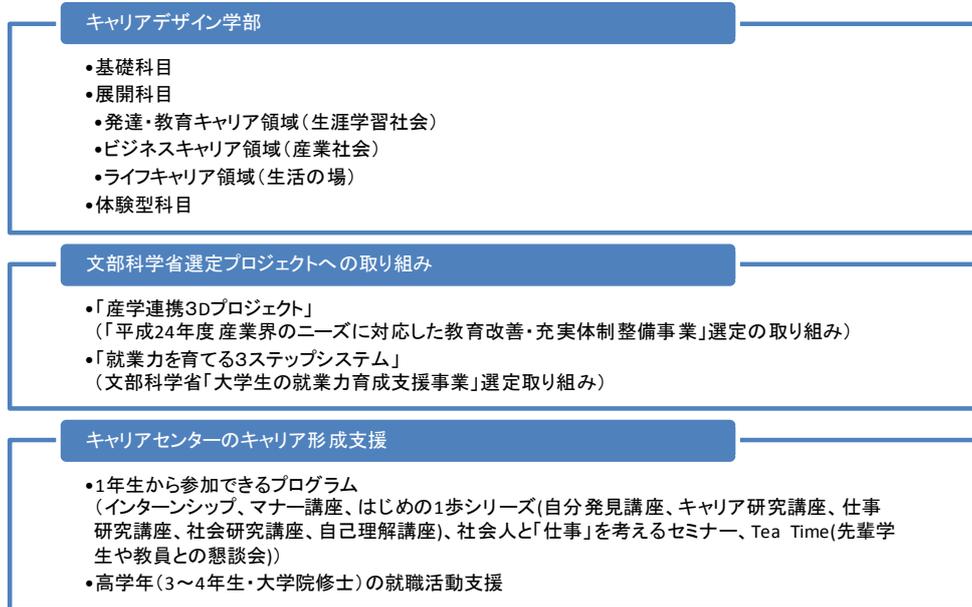
①理念、取組方針

- ・ 法政大学では、「キャリアとは自分らしい生き方である」ととらえ、入学時から全学生を対象にキャリア形成をきめ細かくサポートできるようさまざまな支援を実施している。
- ・ 従来の就職部は職員のみでの組織だったが、教学サイドとの連携を目指し、職員部長に加え、教員側から教育部長（センター長・副センター長）を出すとともに、各学部から委員1名を選出し、キャリア支援教員連絡会議を構成。連絡会議を年に数回持ち、認識の共有と全体の統一を図っている。

②導入経緯

- ・ 2005年には、従来の就職部を改組してキャリアセンターを設置し、総合的なキャリア支援プログラムを展開してきた。
- ・ そもそも、法政大学がキャリア教育に取り組んだきっかけは、①大学進学率の上昇等に伴い、学生の質が多様化する中で、学生の実態と企業が求める人物像に大きな乖離があり、それを埋める必要があると感じたため、②大学の授業には、キャリア形成に役立つ部分が含まれていることを教員に理解してもらい、それを意識した授業展開を進めていくことが必要だと考えたためという2点にまとめられる。

図表 法政大学のキャリア教育の全体像



(資料) 法政大学 HP およびキャリアデザイン学部パンフレット 2014 年版より作成
 (<http://www.hosei.ac.jp/careershien/careerdesign.html>)
 (<http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/careerdesign/shokai/gakusei/pamphlet2014.pdf>
)

(2) 当該大学におけるキャリア教育の特徴(全体像)

1) キャリアデザイン学部の設置

- 2001 年より、担当理事の私的懇談会等での検討を開始し、2003 年に、日本で初めてキャリアデザインを専攻とする、キャリアデザイン学部を設置した。働き方や生き方が変化し多様化している現在、自分自身のキャリアデザインはもちろんのこと、他者のキャリアデザインを支援する専門家が求められているという認識の下、設置している。
- 「キャリア」を、職業キャリアを含めた「人の生涯・生き方」ととらえ、それを設計することを「キャリアデザイン」と定義している。
- 2013 年 5 月 1 日時点で、同学部学生数は、4 学年合計 1,192 名。

図表 カリキュラムの全体像



(出所) キャリアデザイン学部パンフレット 2014 年版

(<http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/careerdesign/shokai/gakusei/pamphlet2014.pdf>)

2) 「産学連携3D教育プロジェクト」(後の3. で詳述)

- ・ 文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に採択され、2010、11 年度に実施した、「就業力を育てる3ステップ事業」が元となっている。
- ・ 同事業では、就業力を (a) 文書作成力、(b) 情報収集・分析力、(c) 状況判断・行動力の3点からとらえ、高校生から大学4年次までを「気づき」「成長」「発展」の3段階(3ステップ)に分けて、自立型人材の育成を目指した。

3) キャリアセンターの取組

- ・ 3キャンパスそれぞれにキャリアセンターを設置している。キャリアセンターでは、キャリア形成支援を、3年次から始まる就職活動支援という狭い概念には限定せず、入学時から全学年を対象に、キャリア形成のサポートを実施している。
- ・ 1年次から参加できるプログラムとして、マナー講座、社会人と「仕事」を考えるセミナー、インターンシップ(約2週間)などを準備し、「働くこと」「仕事について」「社会とは」「自分とは」を考える機会を設けている。
- ・ 大学3、4年生および大学院生には、就職ガイダンスや学内合同説明会、エントリーシート・フォローガイダンス、模擬面接会、内定者報告会などのプログラムを準備している。

3. 特色あるキャリア教育プログラムについて

ここでは当該大学のキャリア教育プログラムのうち、「産学連携3D教育プロジェクト」を取り上げ、その内容や取り組みの工夫について紹介する。

図表 産学連携 3D 教育プロジェクト



(出所) 産学連携 3D 教育プロジェクト特設サイト (<http://3dep.hosei.ac.jp/>)

(1) 「産学連携 3D 教育プロジェクト」の概要

① 目的・位置づけ

1) 導入の背景

- ・ 文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」(2012 年度) に、法政大学を含む 18 大学による「首都圏に立地する大学における産業界のニーズに対応した教育改善」が採択され、取組を開始した。
- ・ 大学は、講義やゼミ、課外活動において職業人として必要とされる能力を身につける教育を行っており、大学での学びは働く力の育成に大いに役立っている。しかし、多くの教員はこのことに気づいておらず、学生に伝えることができていない、という点が当初の問題意識であった。
- ・ そもそも、本学建学の精神は、「法律の実務家を育てる」というもので、元々キャリア教育的な要素が含まれているように、本来大学が有している資源を最大限に活用することを強く意識している。
- ・ キャリアデザイン学部の学生に対しては手厚いキャリア支援を実施していたものの、他の学部の学生にも、キャリア支援を拡充すべきとの認識が問題意識としてあった。

2) 導入の目的・位置づけ

- ・ 大学生として習得すべき能力の内容と水準を明確にすることを目的として、通常の授業の内容の中で、就業力のどの部分と関連があるのかを示しながら授業を行い、「働く力」の全国標準を作ることを目標と設定している。
- ・ キャリアデザイン学部とキャリアセンターとの間にあつて、学部横断的に、キャリアに関する啓蒙活動を行っているという位置づけになる。

②概要（構成）

- ・ 産学連携 3D 教育プロジェクトは、大きく以下の 3 本柱で構成される。
 1. Learning : 正課科目・正課外科目の実施
 2. Practice : 新しい形のインターンシップ
 3. Testing : 働く力測定アセスメントの開発

（２）正課科目の実施について

①目的・位置づけ

- ・ 本プロジェクト実施に伴い、正課科目として合計 16 科目（2014 年度）が開設されている。本プロジェクトを主催している総長室企画・戦略本部（以下、本部と略記）の特任講師による授業が中心となっている。これらに加えて、主催学部が異なる科目があり、それぞれの学部教員が授業を担当する。具体的には、文学部、経営学部、人間環境学部、現代福祉学部、スポーツ健康学部、GIS が担当している。
- ・ 大別すると、本部所属の特任講師が基礎科目を担当し、各学部所属の教員が専門科目を担当している。履修制限をかけず公開科目としている科目が 7 科目、市ヶ谷キャンパス文系 7 学部の学生のみが履修可能な科目が 4 科目（すべて基礎科目）、学部別に履修制限をかけている科目が 5 科目となっている。
- ・ 同じ授業で、異なる教員による複数クラスが開設されている場合、最終的に目指す目標は同じではあるが、それぞれの教員によって授業内容や使用する教材等は異なる。

②授業の内容：キャリアデザイン入門（正課科目、A 教員担当分）

1) アウトライン・概要

名称	「キャリアデザイン入門」
開講学部	市ヶ谷キャンパス文系 7 学部
正課・非正課の別	正課（全学部で、 <u>一部学部で</u> ） ・ 非正課
必修・選択の別	必修 ・ <u>選択</u>
配当年次・学期	1 学年・春学期
時間数	15 週
単位数	2 単位
履修者数	約 970 名（今年度）
クラス数	6 クラス
担当者・人数	専任教員（延べ 6 名・実 3 名）
実施主体	<u>教学</u> ・ キャリアセンター（事務部門）

ー授業の狙い

- ・ 「人と交わる」ことと「現場を知る」ことを通して、自分を知る・自分を認めることが、キャリア教育の根幹にある目的であり、本授業もその目的に沿って展開している。

- ・ 授業の狙いとして、①進路を問わず、将来に役立つことを今から知っておく、②社会の実情を知り、そこで求められる能力を意識する、③自分で考える、現場の声を聞くなど参加型授業の形態をとっていることの3点が挙げられる。
- ・ 授業の到達点として、①人生という一大事業を経営しているのは自分自身である、②人と話すことで、自分の中に隠れている自分に会うことができる、③「今がいちばんいい」と言える人生を歩むことの3点を掲げている。

2) 授業の内容や取組の詳細

- ・ 参加型授業という設計の下、全15回の授業で、毎回グループワークを実施する。
- ・ 6クラスのうち、最大約530名の履修者があるクラスがあり、大きな講堂で授業を実施している。このクラスの最終試験受験者は、履修者の約90%に上り、最終試験受験者の平均出席率は95%に達している。
- ・ イントロダクションとまとめを除いた、全13回の授業内容は、テキストを用いた授業(5回)、外部講師の講話を聞き、ビジネス現場の実態を知る授業(1回)、教材DVDで仕事の現場を知る(3回)、グループワークを通じて、他者の考えを聞き自分を知ることの主眼を置いた授業(4回)となっている。
- ・ 毎回の授業で、リアクションペーパーを提出させている。履修者が多いクラスは500人以上にもなるが、全員分を毎回採点している。
- ・ 成績評価は、リアクションペーパー(60点)、期末テスト(40点)を合計してつけている。リアクションペーパーは、授業を聞いた上で「自分の考え」があることを原則としており、記載内容に基づき5点、3点、1点で採点している。

3) 産業・職業の理解を高める上での工夫点

- ・ テキストを使用する授業では、ただテキストを読み進めるのではなく、テキストを基に、企業の現場の実態など、テキストには記載されていない+αの部分に関して、説明を加えていく形をとっている。
- ・ 教材ビデオを用いて、座学では把握しづらい、実際に働く場面について実感させることを促している。

4) 授業で取り入れているツール

○既存のもの

- ・ テキスト：有田五郎他, 2009『実学 キャリア入門：社会人力を体感する』学文社。

○独自開発のもの

- ・ 働く力教材ビデオ(詳細後述)
- ・ リアクションペーパー

(参考) 働く力教材ビデオ

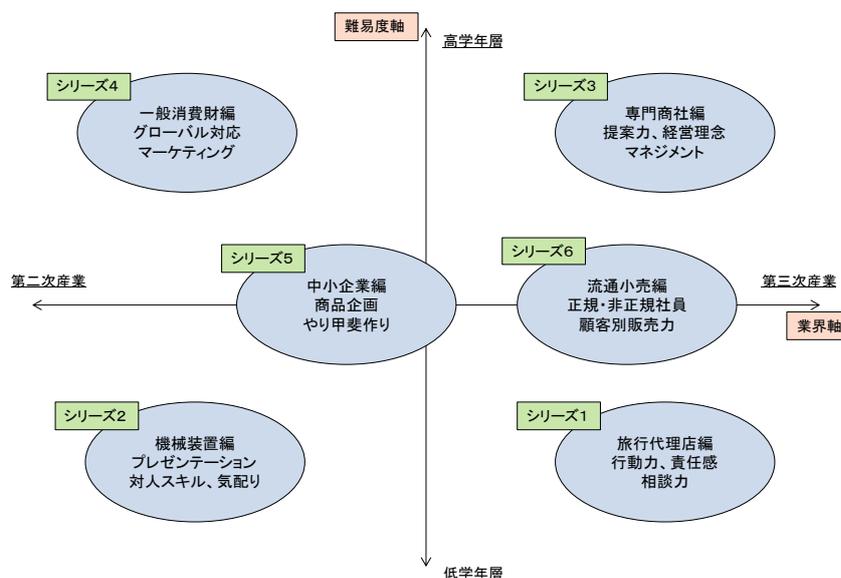
<教材ビデオ製作の狙い>

- ・ 具体的な仕事の内容を題材とすることで、学生に働く場面を実感させ、座学では体感しにくい「働く力」の理解の促進を図る。
- ・ 大学連携（水平協力）による教材開発のメソッド、運用ノウハウの共有。
- ・ 産学連携（垂直協力）による人材育成メソッド、実際の仕事例提供による人材像を共有し、企業の業界／職業理解・新人研修にも利用可能性を開く。

<製作物>

- ・ 2011年度から3年間で、計6本のビデオ教材を製作。企業におけるケーススタディを映像化したもの（シリーズ1,3,5）と、シナリオがあり、それをドラマ化したもの（シリーズ2,4,6）の2系統があり、以下の図のような位置づけになっている。
- ・ ビデオのテーマは、法政大学の学生が多く就職する業種・職種を主に取り上げている。
- ・ より多くの教職員にビデオ教材を利用してもらうために、授業での指導のポイントなどをまとめた「ビデオ教材の活用法」も2013年度に製作した。
- ・ 2014年度は、シリーズ7（工学系）、シリーズ8（販売企画）を製作予定。

図表 ビデオ教材の位置づけ



(資料)「産学連携 3D 教育プロジェクト ビデオ教材研究会」資料を基に、三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングにて作成

<使用例>

- ・ キャリアデザイン入門など正課科目内での使用。
- ・ 学外への出前授業での使用。
- ・ 学内において他の正課科目休講時に、教員側から依頼があった場合、休講を埋め合わせる形での学内出前授業での使用。
- ・ 学外にも配布し、就職セミナーなどにおいて使用されている例もある。

学内外累計 121 回、延べ 10,121 人の受講者にビデオ教材を用いた講義を開催した
(2012 年 5 月～2015 年 1 月)。

③授業の内容：キャリアデザイン入門（正課科目、B 教員担当分）

1) アウトライン・概要

- ・ 上記、(2) のキャリアデザイン入門（A 教員担当分）と同様
ー授業の狙い
- ・ 授業を設計するにあたり、学生が大学で身につけるアカデミックスキルこそ、社会で通用する力であるが、教員・学生・企業担当者がその事実気づいていないという危惧が前提にあった。大学が普段開設している授業をベースに、それを社会に通用する形に応用していくことを念頭に取り組んでいる。
- ・ キャリア教育とは、大学での学びのなかから、社会と関連がある部分を発見し、社会で役立つことを気づかせるものだととらえている。大学はただ知識を教えているだけではなく、そこで得られる知識やアカデミックスキルは、社会のさまざまなところで活用できることを一番に伝えたいと考えている。

2) 授業の内容や取組の詳細

- ・ 授業の出発点として、「大学とは何か」ということから議論を開始し、大学という場所はそのようなスキルを身につける場所なのかを考えさせることから始めている。
- ・ 毎授業の終わりに、リアクションペーパー（A4 用紙 1 枚）を徹底的に書かせており、それを採点している。採点の基準として、分量・見やすさ・漢字の使用・授業を聞いた上で「自分の考え」があること・事実+意見があること・前向きであること・品格があることの 7 項目を設けている。
- ・ 採点を行ったリアクションペーパーは、コメントを付けて返却をしている。その後、自分自身で書いたリアクションペーパーに対して、自分で評価をつけさせ、なぜ「そのような自己評価を下したのか」についてもレポートを課す。さらに、リアクションペーパーの自己評価の結果を収集してデータ化し、それも学生に共有している。
- ・ 授業アンケートの結果から、思考力・分析する力・新しい発見・視点を得たという点に関して、他の授業と比較して、本授業履修者が伸びたと感じている点である。

3) 産業・職業の理解を高める上での工夫点

- ・ 教材ビデオを用いて、座学では把握しづらい、実際に働く場面について実感させることを促している。
- ・ リアルタイム・コミュニケーションを重要視しており、授業担当者から学生への質問や問いかけを行い、自分の意見を明確に伝える訓練をしている。また、板書をノートに写す時間は敢えて設けておらず、授業を聞きながらメモを取る、積極的に意見を出

して授業へ参加する、他人の意見に耳を傾けるといったマルチタスクをこなせるようになることを課題としている。こうした授業スタイルをとることで、実際に社会人になったときをイメージした訓練の意味合いも持たせている。

- ・ 自分自身で書いたリアクションペーパーに対して、自己評価を行わせると、自分自身を客観視することができる。さらに、リアクションペーパーにコメントを付けて返却することを通して、読み手（主に企業を想定）はどのような観点で文章を評価しているのかを意識付けさせている

4) 授業で取り入れているツール

○既存のもの

- ・ 参考文献：武内清編,2003,『キャンパスライフの今』玉川大学出版部
- ・ 参考資料：武内清(研究代表),2009,『キャンパスライフと大学の教育力』（平成 19-21 年度文部科学省研究補助金報告書）

○独自開発のもの

- ・ 働く力教材ビデオ
- ・ リアクションペーパー

（3）正課外科目の実施について

①目的・位置づけ

○正課科目と正課外科目の違い

- ・ 正課科目の場合、キャリア教育とは、就職準備や就職のためのガイダンスではなく、広い意味で自分の将来やキャリアのことを考えることを目的としている。
- ・ 一方で、正課外科目は、個々人の目的・方針に則って、就職準備として位置づけて対応している現状がある。時期によっては、就職活動に特化した取組も実施している。
- ・ 正課外科目は、大学での学びが社会でどのように役立つかという視点というよりも、実際に社会で求められる能力やスキルを先に伝え、それをいかに修得するかを主眼に置いている。そのため、正課外科目は、正課科目ほど、学習内容の社会との繋がりを意識させるような設計にはなっていない。また、正課外の取組のため、比較的自由度の高い取組を行えるという側面もある。

②実施内容

オープンキャンバスでの保護者向け説明会の実施

- ・ 2014 年度は、全 3 回のオープンキャンバスで各回 45 分間、200 人収容可能な教室において、保護者向け説明会を実施している。
- ・ 産学連携 3D 教育プロジェクト本部の特任講師により、「大学の学びは『働く力』に直

結する」というタイトルで、本学が進めるキャリア教育の内容を紹介する。キャリアデザイン入門の授業内容等に加え、社会が求める人材等についても解説している。

L ステゼミ（学習ステーション）の実施

- ・ 2014年度は、上半期に2回開催（昼休みの30分間を活用）。下半期にも開催予定。
- ・ 『働く力』をUPさせる文章作成講座」というタイトルの下、エントリーシートの質問事項に対して、自分はどのようなネタを持っており、そのネタをどのように文章化すると良いのかといった勉強会が主な内容になっている。
- ・ 企業目線で、「どのようなエントリーシートなら読んでもらえるか、良いと思ってもらえるか」という視点から考えさせ、結論から書き出すことや実際に企業に就職した際にやりたいことを具体的に書き出すことなどを指導している。

就業力養成ゼミの実施

- ・ 単位化していない講座ではあるが、2014年度は9月から2015年1月まで半期にわたり授業時間を使って行った。学年学部を問わず参加可能。
- ・ 産学連携 3D 教育プロジェクト本部の特任講師2名が、市ヶ谷キャンパスと多摩キャンパスをそれぞれ担当し、「働く力」を養うための様々な課題に対して、グループワーク形式で取り組む予定をしている。
- ・ 市ヶ谷キャンパスでのゼミでは、企業との連携を図りながら、企業への見学や、企業の方を審査員としたビジネスコンテストなども実施している。コンテストのお題は企業の方から出してもらおう形をとり、プロジェクト・ベースド・ラーニングの形態をとっている。
- ・ 毎年、約10～30名程度の学生の参加がある。

（４）新しい形のインターンシップについて

- ・ インターンシップを「共働実習」ととらえ直し、学生と企業双方にメリットを見出せるようなインターンシップを開発し、実施することを基本方針としている。全学部全学生を対象として実施している。

①実施内容

「企画販売インターンシップ」（通年）

- ・ アパレル商材を中心に、企画立案、復職販売（仮店舗販売）運営を行う。企画～仕入～販売～決算という一連の流れを学生に経験させる。

「新しいビジネスモデルや新商品開発の提案」（秋学期）

- ・ 旅行用品・文房具を扱う企業に協賛してもらい、新しいビジネスモデルや新商品開発の提案をコンテスト形式で実施する。アイデアコンテストに終始することを避けるため、資金調達から始まる資金の流れなどの学習も取り入れる。

「中小企業での育成型インターンシップ」（秋学期）

- ・ 定期的に新卒採用を実施していない企業に、インターンシップとして、毎週定期的に

学生を派遣し、指導社員に同行しながら、企業の具体的な問題の解決にあたる。

（参考）働く力測定アセスメント（HAT）

＜開発経緯＞

- ・ 既存のアセスメントツールは、低価格で短時間に終わる簡便なものか、非常に丁寧な測定結果が得られるものの高価で長時間を要するものに二極化しているため、その中間に位置づけられるようなアセスメントツールづくりに取り組んだ。
- ・ 「ペーパーテスト」と「ビジネスゲーム」を組み合わせ、能力と特性という2つの観点から働く力を診断するアセスメントツールを独自に開発した。

＜内容＞

- ・ ペーパーテストは、筆記試験（選択問題 61 問と記述問題 13 問）、ヒアリング試験 2 問、計 76 問を 80 分で実施している。
- ・ ビジネスゲームは、2～5名 1 チーム、90 分で実施され、他のチームとは同じ会社の他支店で、会社全体の目標を達成するために協力しつつ、最終的な利益額を競い合う。

＜アセスメント結果・指標＞

- ・ (A) 文章作成力
(下位概念：要点メモ力、記録作成力、文意把握力、文章構成力、文書力)
 - ・ (B) 情報収集・分析・発想力
(下位概念：情報源把握力、情報収集力、情報価値判断力、情報発信力)
 - ・ (C) 状況判断・行動力
(下位概念：状況判断力、状況対応力、行動力)
- の3項目が設定され、(A)～(C)それぞれについて、レーダーチャートでアセスメント結果を示す。
- ・ さらに、能力と特性をそれぞれ横軸・縦軸に取り、(1) 能力高・特性高：強みゾーン、(2) 能力高・特性低：意識改善ゾーン、(3) 能力低・特性高：訓練ゾーン、(4) 能力低・特性低：訓練・意識改善ゾーンの4象限に、上記の(A)～(C)の3項目をプロットして示す。

＜使用例＞

- ・ 基本的には、受験希望者を募集して行っている。学外でも実施しており、運用開始1年で、延べ935人の学生が受験した（他大学の学生も含む）。
- ・ 「キャリアデザイン演習」という授業でも実施している。
- ・ 受験料は、文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」に基づく支援で賄い、現在のところ学生には無料で実施している。

＜ツール導入後明らかになったこと＞

- ・ 「働く力」は大学1～3年生はあまり伸びないが、4年生で伸びるという結果が得られている。各所属のゼミでの活動と、就職活動の経験が、「働く力」の伸長に寄与して

いるのではないかと考えられる。

<今後の課題>

- ・ 次年度までに、キャリア教育科目の履修の有無、他に履修した科目、各授業の成績、就職先、といった項目別にアセスメントの結果をデータ化し、より精度を上げる。

4. 課題・今後の方針

- ・ 本プロジェクト実施の契機となった、文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」が、2014年度末で終了するため、文部科学省による支援は来年度以降得られない。ただし、キャリア教育の必要性の社会的な高まりと、産学連携 3D 教育プロジェクトの有用性が評価され、次年度以降も継続することとなった。
- ・ ただし、予算面での問題は抱えており、働く力教材ビデオの提供や働く力測定アセスメントの受験を有料化するなどの可能性もある。